

# カトリック六甲教会 教会報

第51回「世界平和の日」教皇メッセージ（2018年1月1日）

## 「移住者と難民、それは平和を探し求める人々」

### 1. 平和のあいさつを心より申し上げます。

地上のすべての人と国に平和がありますように。平和。それは降誕祭の夜に天使が羊飼いたちに告げたことば(ルカ 2・14)であり、すべての人、あらゆる個人と民族、とりわけ平和の欠如によりひどく苦しんでいる人々が心から願い求めているものです。わたしはこれらの人々のことをつねに考え、彼らのために祈っていますが、その中でも世界中に2億5千万人以上いる移住者と、その内の2250万人の難民について再び話したいと思います。わたしの敬愛する前任者、ベネディクト十六世が断言しているように、彼らは「平和のうちに過ごすべき場所を求める、男性、女性、子ども、若者、高齢者です」。彼らの多くは平和を見いだすために、いのちをかける覚悟で旅に出ます。その旅は多くの場合、長く険しいものです。そして彼らは苦しみと疲れに見舞われ、目的地から彼らを遠ざけるために建てられた鉄条網や壁に直面します。

戦争と飢餓から逃れてきたすべての人々、差別や迫害、貧困、環境破壊のために祖国を去らざるをえないすべての人々を、いつくしみの精神をもって抱きしめましょう。

わたしたちは、他の人々の苦しみに対して心を開くだけでは十分ではないことを自覚しています。わたしたちの兄弟姉妹が安全な家で再び平和に暮らせるようになるまでに、成すべきことはたくさんあります。他の人々を受け入れるために必要なことは、具体的な活動、援助と善意のネットワーク、注意深く思いやりにあふれるまなざし、そして責任をもって新たな複雑な状況に取り組むことです。つねに限りのある資源をめぐる問題などのさまざまな既存の問題が、多くの場合、その状況には重なり合っています。政治指導者は、賢明の徳を実践することにより、移住者と難民に対する受け入れ、促進、保護、共生を行い、「正確に理解された共通善が許すかぎり、……新しい社会に溶け込むことを助ける」具体的な対策を講じることができます。政治指導者は、自分自身の共同体に対して明らかに責任を負っています。彼らは自分自身の共同体の正当な権利と調和のとれた発展を確かなものにしなければなりません。そうでなければ、計算を誤ったために建て始めた塔を完成できない愚かな建築者(ルカ 14・28-30 参照)のようになってしまいます。

### 2. どうしてこんなにも多くの難民と移住者がいるのでしょうか。

ベツレヘムで天使が平和を告げてから2000年が経過したことを記念する大聖年を目前にして、聖ヨハネ・パウロ二世は、避難民の増加は、20世紀の特徴である「戦争、闘争、大量虐殺、民族浄化の脅威に絶えずさらされた」結果の一つであると述べました。今日まで、新世紀には真の突破口はありませんでした。そのため、人々は武力紛争や他の組織的な暴力のために、引き続き国内外への移動を余儀なくされています。

一方、人々は他の理由のために、おもに「よりよい生活を心から求め、暗い未来への『絶望感』を何度も打ち消す」ためにも移住します。彼らは家族と合流するため、もしくは雇用機会や教育を

受ける機会を得るために旅立ちます。そうした権利を享受できなければ、だれも平和のうちに生きることはできないからです。さらにわたしが回勅『ラウダート・シ』の中に述べたように、「環境悪化によってますますひどくなる貧困から逃れようとしての移住者数は、痛ましいまでに増加しています」。

大多数の人々は正規ルートで移住しますが、とりわけ絶望のために他のルートをたどる人々もいます。母国では安全な生活もチャンスも得られず、あらゆる正規ルートは実現不能か、阻止されているか、もしくはあまりにも時間がかかるように思われるからです。

国家の安全が脅かされることや、新たな入国者を迎えるために多くの経費がかかることを誇張する風潮が、多くの目的国の中で広まっています。それにより、神の子としてすべての人がもつべき人間の尊厳がないがしろにされています。たとえ政治的な目的のためであったとしても、平和を構築せずに移住者への恐怖心をあおる人は、暴力や人種差別、外国人嫌悪の種を蒔いています。一人ひとりの人間を守ることに心を傾けるすべての人にとって、このことは深刻な問題の原因です。

国際社会が入手したすべてのデータは、世界的な移住現象が今後も続くことを示しています。このことを脅威として受け止める人もいるでしょう。しかしわたしは、平和を築く機会として確信をもってこのことを見据えるよう、皆さんにお願いしたいと思います。

### 3. 観想的な視点で

信仰の知恵は、わたしたちが一つの家族の一員であることを悟らせてくれる観想的な視点をより豊かにします。「教会の社会教説が説いているように、移住者も、彼らを受け入れる地元の住民も、だれもが一つの家族の一員であり、だれもが普遍的な目的を持つ地上の富を享受する同じ権利を有します。そこに、連帯と分かち合いが生まれるのです」。このことばは、新しいエルサレムのイメージを思い起こさせます。イザヤ書(60章)とヨハネの黙示録(21章)によれば、その都にはあらゆる国の人々が入れるようにつねに開かれた門があります。人々はこの都を称賛し、富で満たします。平和こそが、その都を導く君主であり、正義はその中の共存を治める原則です。

わたしたちが住んでいる町にも、この観想的な視点、すなわち「家々や通り、広場におられる神を見いだすことのできる信仰の目……連帯、兄弟愛、善と真理と正義の希求を促進する」目、つまり平和の約束を実現させる視線を向けなければなりません。

この視点から移住者と難民を見ると、彼らが空の手で到着するのではないことが分かります。彼らは勇気、技術、エネルギー、熱意、そして母国の文化の宝を持って入国し、受け入れ国の人々の生活を豊かにしてくれます。また、たとえ財源が乏しくても、移住者と難民に向けて自らの扉を開いている、世界中の数え切れないほど多くの個人、家族、共同体の創造性とねばり強さと犠牲精神にも気づけるようになります。

最後に、この観想的な視点は、公益の責任を担う人々の識別を導き、「正確に理解された共通善が許すかぎり」、すなわち一つの人類家族のすべてのメンバーのニーズと各個人の幸福を考えながら、受け入れ政策をできる限り推し進めるよう促します。

この視点をもって生きる人は、すでに芽生えた平和の芽を見分け、その成長を見守ることができます。こうしてわたしたちの町は、移住者と難民の存在をめぐってしばしば引き裂かれ、分断する場から、平和を構築する場へと変わっていきます。

< 中 略 >

### 6. わたしたちの共通の家に向けて

「もし、すべての人々が平和な世界という夢を分かち合い、また難民や移住者の貢献が正しく評価されるなら、人類はもっと世界的な家族となり、地球は本当の意味での共通の家となるでしょう」。この聖ヨハネ・パウロ二世のことばに導かれましょう。歴史を通して、多くの人々がこの「夢」を信じてきました。そして彼らの行いは、この夢がただの理想郷ではないことをあかししています。

それらの人々の中には、2017年に帰天100周年を迎える聖フランチェスカ・サヴォリオ・カブリーニがいます。多くの教会共同体が今日、11月13日に彼女の記念日を祝います。移住者の

ために自らのいのちをささげたこの小柄で偉大な女性は、移住者の守護聖人となり、どうしたら兄弟姉妹を受け入れ、守り、促し、彼らと共生できるかをわたしたちに教えてきました。彼女の取り次ぎによって、「義の実は、平和を実現する人たちによって、平和のうちに蒔かれる(エフェソ 2・19)」ことを、主がわたしたちすべてに体験させてくださいますように。

バチカンにて

2017年11月13日

移住者の守護聖人、聖フランチェスカ・サヴォリオ・カブリーニの記念日  
フランシスコ



#### 第4回小教区評議会（2017年12月17日） 議事録

(1) 主任司祭の挨拶

(2) 協議事項

① 2018年度活動計画と予算申請について

② 2018年度年間行事予定について

③ チャリティバザーの献金先について

(3) 報告事項

① 祈りと音楽の集い（10月29日）報告

② 第2回神戸地区大会実行委員会（11月5日）報告

③ チャリティバザー・教会大掃除・第5回地区役員会報告

④ 第4回イエズス会教会使徒職委員会拡大会議（11月16-17日）報告

⑤ 10年後を見据えた六甲教会の重点（優先）課題について

⑥ 社会活動部ボランティアグループのバザー出店について

⑦ 東ティモールイグナチオ学院の奨学金について

次回 小教区拡大評議会 2018年2月3日(土) 10時

<行事報告>

#### 壮年会「懇談会」開催（11月26日）

11月26日（日）12時過ぎから2階会議室で開催。アルフレド神父も参加されて総勢14名が集まりました。

今春のアンケート調査結果「10年後の重点課題」を参考に、信徒の高齢化、ミサ参加者の減少の中で、六甲教会の在り方や私たち信徒は何ができるか、などについて率直に意見交換しました。はじめのうちは固い雰囲気もありましたが、次第にほぐれてきて、最後は賑やかで楽しい雰囲気に包まれました。

大いにハッとさせられる意見も飛び出しました。例えば、「バトンタッチしたいのに若い後輩が見つからない」と嘆く声がある一方で、若い層からは「上が頑張っているから、我々の出番がない。下が入りにくい。」という声がありますよ、などです。高齢化対策の筆頭は、若い人と交流を持つこと、大いに喋ること、面倒くさがらずに声かけすること、だと確信しています。

壮年会の男性の皆さん、教会に足を運びましょう！ミサが終わっても、すぐに帰らず、いっぱい喋りましょう！イグナチオ喫茶を大いに活用しましょう！喋って、新しい人と交流を開くことは若

さを保つ最高の秘訣です！ミサのあとは、教会に長居して、楽しい気分で帰りましょう！

第1回の試みが終わりましたが、これからも壮年会の集まりを時々開催しようと思います。休日の夕方からアルコールを交えて喋りあうのもいいかな……。自由で寛いだ雰囲気の中で交流を深める会合を継続していくことで参加者全員一致。次回の集まりには一人がもう一人を誘って、賑やかに集まりましょう、と確認して終了しました。  
(壮年会会長・林和俊)



<行事報告>

## クリスマスチャリティーコンサート 2017 開催 (12月2日)

心あたたまるクリスマスチャリティーコンサート 2017 無事終了

昨年の12月2日(土)、神戸中央教会で、野宿者のために活動されているカトリック社会活動神戸センターと須磨夜回り会を支援するためのクリスマスチャリティーコンサートが開かれました。教会内外問わず、今年は12グループが出演しました。かつて野宿者であったおじさんたち、今も野宿を余儀なくされているおじさんたちもこの日ばかりは、チャップリンの格好をしてステッキ片手に踊り回り、寒さの中にも凜として立ち続ける「もみの木」を歌ってくれました。



また、日頃真面目な神父さまも、ドラムやギター演奏をされ、エマニュエル神父さまも熱唱されていました。この日、集められたチャリティー募金額は、164540円でした。これは、社会活動神戸センターと須磨夜回り会に折半で送金されました。コンサートに来てくださったみなさま ご協力ありがとうございました。昨年来られなかった皆様も今年の12月にはぜひお越しください。

(社会活動部)



<行事報告>

## 第15回メサイア・クリスマスコンサート開催 (12月10日)

第15回クリスマスコンサートを終えて

2017年12月10日、カトリック六甲教会に於いて恒例のクリスマスコンサートを盛会のうちに終える事が出来ました。六甲教会の神父様はじめ教会関係の皆様方のご厚情に支えられ実現出来た事でした。心より御礼申し上げます。

コンサートはカメラータ神戸の清らかなハーモニーで幕を開け、メサイアに続きました。教会の信徒の方々、カメラータ神戸、一般参加の皆様70名以上のメンバー、10名の楽器の方々、エリック先生のご指導・指揮のもと心を込めた演奏になった気が致しました。



そして、沢山の方がコンサートにお越しいただき、最後は全ての方々とハレルヤ！の大合唱で幕を閉じ、演奏後の皆様の晴れやかな表情が大変印象深く残っております。全ての皆様に実行委員一同から感謝とお礼を申し上げます。有り難うございました。

最後になりましたが、ご来場の皆様から頂きました 13 万 3848 円は全て教会に献金させて頂きました事をご報告させて頂きます。  
(クリスマスコンサート実行委員 高原啓子)

六甲教会のメサイア演奏会はことしで 15 回目を迎えたそうです。開演前から人々が大勢詰めかけるほどで、聴衆が多いのにはびっくりしました。永年の実績の賜物ですね。



はじめに女声アンサンブル・カメラータ。ゆりかごの会と一緒にクリスマスキャロルが歌われ、きれいなハーモニーに聴き入りました。休憩のあとよいよメサイア演奏です。教会の方々と各方面の有志の方々が、九月まだ暑さが残る頃から練習を重ねてきた成果がここに披露されます。いつもの藤原公子さんの落ち着いたナレーションにはじまり、前奏のオーケストラ（小編成ですけれどもとてもよくまとまって素敵な演奏）、そして力強いコーラスが始まりました。大柄なエリック・コロンの指揮はとてもダイ

ナミックで、演奏は華やかに、また厳かに大聖堂に響き渡りました。

最後のハレルヤは最高潮、拍手喝采でアンコールには聴衆も一緒に全員でハレルヤ！みなさんの気分もきっと高揚したことだと思います。楽しいひとときをありがとうございました。

(詫 和子)

カトリック六甲教会には初めて伺いましたが、大変楽しい音楽会でした。なじみのある曲から宗教音楽へと繋がる構成や、指揮者の解説がメサイアを解り易いものにしていました。

ありがとうございました。

(野依 昭子)



<行事報告>

## 六甲教会混声合唱団施設訪問（12月16日）

六甲教会混声合唱団の皆さまへ

先日は寒い中、グランダ御影山手へお越し頂き誠にありがとうございました。

ご入居の方々をはじめ、スタッフ一同、この日を心待ちにしておりました。ご入居の方からも「今年も六甲教会の方が来られるのね！絶対見に行くね！」と毎年の恒例行事となっている皆さまの来訪を楽しみにされていました。

総勢 25 名様合唱団の皆さまに来ていただき、皆さまの心温まる圧巻の歌声に感動しました！そして「クリスマスの季節がやってきたんだな！」と皆さまの合唱を聞いてやっと実感することができました。特に最後の「きよしこの夜」をご入居の方々と合唱した際には、心がひとつとなり、胸が熱くなりました。

皆さまが帰られた後もご入居の皆さまは「すごくよかった！」「また来年も来てほしい！」と大変喜ばれていました。また来年、皆さまの素敵な歌声を聴けることを楽しみに待っています。

これから寒さ厳しくなって参りますが、お身体に気をつけてお過ごしください。

(グランダ御影山手スタッフ一同)



≪ 各部だより ≫ 各専門部会の活動をお知らせいたします。

📖 小教区評議会

2月3日(土) 小教区拡大評議会

📖 三日月会

1月15日(月)14:00 ミサと懇親会

📖 地区会

2月4日(日)12:00 役員会

📖 典礼部

1月13日(土)10:00 典礼部会

📖 教会学校

1月13日(土) 始業式・もちつき

📖 広報部

1月27日(土)10:00 教会報印刷

≪ お知らせ ≫ 教会のみなさまに知って頂きたい活動やお知らせです。

◆ 小教区評議会より ◆

神戸地区大会の「テーマ」案を募集します

2018年6月10日(日)たんば田園交響ホールで神戸地区大会が開催されます。  
「大阪教区再宣教150年」を軸にした大会のテーマ案をお寄せください。

締切 2018年1月14日(日)

提出先 六甲教会受付

◆ 社会活動部より ◆

1月13日(土) 10時 炊き出し (イグナチオホールお台所)

小野浜グラウンドにて、おじさん達のお話し相手や配食だけでもOKです。

1月21日(日) 10時ミサ後 ふれあい広場 (イグナチオホール)

1月26日(金) 9時半 ともしび会 施設の子どもたちへのケーキ作り (イグナチオホールお台所)

越冬・越年の炊き出しのお知らせ

野宿者のために炊き出しのお手伝いできるかたは ご協力よろしくお願ひします。

日時： 2017年12月28日(木)～2018年1月5日(金)10時～

カトリック教会のお当番は、1月1日(月)と1月5日(金)です。

場所： 東遊園地 (市役所南) エプロンをご持参ください。

神戸地区社会活動委員会 (シナピス神戸) 学習会のご案内

テーマ：平和をつないでゆくために ～憲法9条と日本のゆくえを考える～

講師：西 晃 (弁護士) 憲法問題特別委員会委員長

日時：1月27日(土)14:00～16:00

場 所：カトリックたかとり教会

参加費：無料

お問い合わせ：シナピス神戸 Tel. 078-221- 4733

## ◆ 典礼部より ◆

### \*\*\* 朗読奉仕者の方の事前練習について（お知らせ）\*\*\*

昨年に引き続き、19時ミサ（土曜日）の朗読奉仕者の方の事前練習を、次の通り実施いたします。

- ・1月20日（土）から2ヶ月間、毎土曜日19時ミサ前（18：40～18：50の間）に朗読の事前練習を行います。
- ・当日の19時（土）ミサ担当の朗読奉仕者お二人の方は、18：40までに聖堂にお集まり下さい。
- ・事前練習の時は、典礼部担当者が同席させていただきます。

## ◆ 結婚準備セミナーより ◆

2月より「結婚準備セミナー ～幸せな家庭生活をめざして～」が始まります。カトリック教会で結婚式をあげるご希望の方は必ず受講して下さい。

愛による決断によって、二人で新しい家庭を築いていく結婚生活には、喜びに責任も伴います。そして、それにふさわしい心の準備が必要です。

結婚準備セミナーは、このようなお二人のために開かれています。気楽な雰囲気の中で信頼に満ちたカップルの対話によって、結婚のための良い準備をいたしましょう。どうぞお気軽にご参加ください。

会場 カトリック六甲教会

対象 婚約者・結婚を前提に交際している人（宗教は問いません）

会費 二人で参加 10,000円（一期全コース、資料代含む）

日程 2018年2月3日～3月24日（毎週土曜日全8回）

17：30～1時間半程度



## みんなの広場

### カトリック信者に繰り返し「陰口」戒める

「誰もが憩える教会」「外部の人が暖かさにひきつけられてやってくる教会」をイメージする時、最大の障壁は陰口だと思っています。教皇様も陰口の成す悪についてたびたび言及されており、私達も素直に聞き従うべきではないでしょうか。（小坂田 さち子）

教皇フランシスコは Bangladesh の少数派のカトリック共同体と過ごし、聖職者や修道者たちに向けて、教会が陰口や分裂、恨みに満ちていては、諸宗教間の協調の促進などお

ぼつかない、と警告した。「協調にはたくさんの大敵があります」と教皇は12月2日午前、ダッカの聖なるロザリオ教会で語り、その中でも最も悪質が多いのが陰口だと指摘した。

「教皇は同じことばかり言っていると文句が言いたくなるかもしれませんが、これは私にとって重要なことなのです」と教皇は教会関係者たちに念を押しました。

誰かについて陰で悪口を言うことは不信感を生み出す、と教皇は続け、「それはある種のテロ」で、全てを破壊すると強調した。陰口への誘惑を感じたら、「舌をかんでください。舌を痛めるかもしれませんが、兄弟姉妹を傷つけずに済みます」と教皇は話しました。

(カトリック新聞12月2日ダッカからの記事より抜粋)



**2018年1月7日10時のミサ中に新成人の祝福があります。**

**そのミサ後、教会新年会を開きます。皆様、ご参加下さい。**

教会報 2月号の発行は1月28日(日)です。 原稿は1月14日(日)までに教会受付へご提出ください。FAX及びメールでも受付いたします。 (広報部) <a href="http://www.rokko-catholic.jp">http://www.rokko-catholic.jp</a>	カ ト リ ッ ク 六 甲 教 会	
	〒657-0061	神戸市灘区赤松町3-1-21
	電 話	078-851-2846
	F A X	078-851-9023
	発行責任者	アルフレド・セゴビア
編 集	広 報 部	